

2-1.平均在院日数（一般病床）

項目の解説

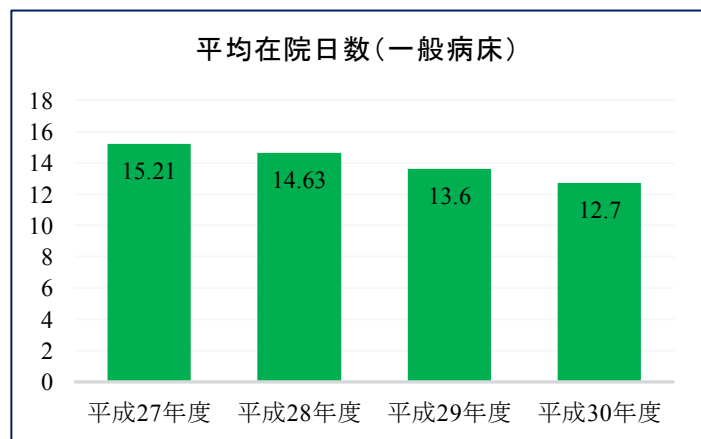
患者が一般病床に平均何日入院しているのかを表す指標です。患者の重症度や疾病により違いがあるため単純に比較することはできませんが、急性期病院の治療能力を反映している可能性があり、質の確保と医療の効率化が高いレベルで達成されるほど、平均在院日数は短縮されるとされています。また、病床稼働率（一般病床）と合わせて比較することにより、例えば病床稼働率が上昇し、在院日数が短縮している場合は、地域の医療機関などと連携しながら、急性期医療を効率的に行っていると考えられます。

算式

「在院患者延数」÷（（「新入院患者数」+「退院患者数」）÷2）

当院の実績

平成 30 年度	12.70 日（年間）
平成 29 年度	13.60 日（年間）
平成 28 年度	14.63 日（年間）
平成 27 年度	15.21 日（年間）



定義

当該年度 1 年間の、一般病床における平均在院日数です